

経営者・従業員のための

健康 ひとくちメモ



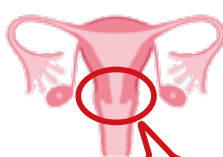
(公財)福井県健康管理協会
看護師
三上 由衣

子宮頸がんについて知っていますか？

子宮頸がんとは

子宮頸がんは、子宮の入り口にできるがんのことを言います。主にHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因です。自覚症状が無いまま進行するという特徴があります。

また、日本では子宮頸がん新たにかかる人は毎年約1万人とされています。子宮頸がんにかかる女性の約15%が20～30代です。 ※1



子宮の入口に
できるがん

HPVってなに？

子宮頸がんのほとんどは、HPVの感染が原因です。感染経路は主に性交渉ですが、HPVはどこにでもあるありふれたウイルスで、女性の多くが一生に一度は感染するといわれています。HPVには200種類以上のタイプがあり、この中でも子宮頸がんに関連するタイプを「ハイリスクHPV」といいます。特に進行がんでは16、18型のHPVが関連する場合がほとんど

です。

主に性的接触を契機に子宮頸部の細胞にHPVが感染します。しかし、感染後すぐにがんになるわけではありません。ウイルス感染後の多くは自然に排除され正常な細胞に戻りますが、一部のウイルスは感染が持続し細胞が異形成という状態に変化します。異形成は前がん病変とも呼ばれ、軽度、中等度、高度の三段階があります。前がん病変であっても、ウイルスが排除され正常化することもあります。感染が持続すると、数年から数十年の時間を経て子宮頸がんへと進行します。

子宮頸がんを予防するには？

子宮頸がんを予防するために、HPVワクチン接種と定期的な検診が重要です。

HPVワクチンは、子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルスの感染を予防するワクチンです。子宮頸がんのほとんどは、主に性交渉によって感染するHPVが原因のため、感染予防として感染する前のワクチン接種が大切です。また、性交渉を経験済みの方もまだかかっていないHPVの型の感染を防ぐ効果があります。そのため、

小学6年生～高校1年生までの女子が定期予防接種の対象となっており、公費でワクチンを接種できます。



定期的な検診は20歳から2年に1回、子宮頸がん検診を受ける事である前の段階やがんの初期に発見することが出来ます。

子宮頸がんを予防するためにはワクチン接種と20歳から2年に1回の定期的検診が大切です。みなさんも子宮頸がん予防のためにワクチン接種と子宮頸がん検診を受けましょう。

※1 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(2016

～2021年) 参照

